

## 保温材・断熱材の使用温度範囲

各種保温材や断熱材の使用温度範囲を示す表です。温度上限域では施工や用途において、温度上限より低い温度で使用するなど、安全域を考慮する注意が必要です。

	-200℃	0℃	200℃	400℃	600℃	800℃	1000℃	1200℃	1400℃	1600℃
フォームポリエチレン		■								
吸収ウレタンフォーム	■									
硬質フォームラバー		■								
発泡フェノールレジン		■								
牛毛フェルト			■							
塩基性炭酸マグネシウム			■							
多泡ガラス	■									
グラスウール			■							
ロックウール				■						
珪酸カルシウム保温材（トバモライト系）				■						
パーライト保温材				■						
パーミキュライト保温材					■					
珪酸カルシウム保温材（ゾノトライト系）					■					
セラミックファイバー（シリカアルミナ系）						■				
セラミックファイバー（アルミナ系、ムライト系）							■			

イソライト工業㈱資料より

■ 技術資料No. 11（2010/3）「気体燃料の物性代表値」の訂正があります。中部ガス㈱様の都市ガス 13A の成分組成が直近のデータ（2011/4）では変更があり、技術資料No. 11の訂正をお願いします。訂正箇所は「高位発熱量が 46.05 Mj/m<sup>3</sup>N、低位発熱量が 41.64Mj/m<sup>3</sup>N」です。